

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城

【学校名】 利府町立 利府中学校

【テーマ】 ① II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

「オリンピックを感じよう

～東京オリンピック・パラリンピックムーブメントに向けた中学生としての取組を通して～

【実施学年、部、講座等】

第 1 学年（男子 75 名・女子 63 名）（特別支援学級生徒含む）

第 2 学年（男子 72 名・女子 56 名）（特別支援学級生徒含む）

第 3 学年（男子 78 名・女子 70 名）（特別支援学級生徒含む）

【目的・ねらい】

中学校の教育課程において、オリンピック・パラリンピックに関連付けた運動及び文化的な活動を中学生に体験させることを通して、国内開催のオリンピックの士気高揚に資する。

【種類】（当てはまるものに○）

- ・各教科（ ） ・道徳 ・外国語活動 ○総合的な学習の時間
- ・教科以外での取組（ ）

【実践内容等】

（実施内容） ※適宜、様子を示す写真、図表、記録を含めてください。

（1）実施内容：オリンピック・パラリンピック関係者（選手含む県内出身者等）の講話を聞く。

（2）期待する効果：関係者から直接講話を聞くことで、オリンピックが当地域を含め国内で開催されることへの動機付け。【総合的な学習の時間：関心・意欲・態度】

（3）実施内容の具体

実施日：平成28年2月23日（火） 6校時 （2：15～3：10）

場所：利府町立利府中学校体育館

対象生徒：全校生徒（414名）

講演者：小室 希（こむろ のぞみ） 氏（女性）（仙台大学職員）

（バンクーバー五輪、ソチ五輪スケルトン競技日本代表：宮城県柴田郡村田町在住）

講演内容：スケルトン競技を始めるまで・オリンピックでの体験・中学生に伝えたいこと 他

実施内容：講演・競技用品の展示・写真、映像の展示公開

実施協力：仙台大学（事業戦略室 室長 渡邊 一郎）

(実施内容の続き)



(講演する小室選手)



(講演後、質問する生徒)

みなさんは今、将来に種をまき、育てている時期ですね。(中略)
今を一生懸命生き、なんでも自分の栄養にして自分の中の花を育てていってください。

(小室選手からのメッセージ)



(仙台大学提供写真)

【学校だよりに掲載・配付】

【パネル校内掲示中】

(実践上の工夫点、留意点等)

- ・単なる講演(講話)にならないよう、映像や実際に使用している用具などを示しながら、オリンピック選手を身近に感じることができるよう事前に協力部局及び講演者と連携を密に行った。
- ・オリンピック選手になるための講演ではなく、目標や目的をもって努力を重ねることが自分を成長させることにつながるものである、といった趣旨の講演になるよう事前に講演者と打ち合わせた。

(成果)※児童・生徒の学習効果、意識変容等の効果について、可能な範囲でアンケート結果等概要を記入してください。

- ・地元宮城県出身であり、県内在住でもあるオリンピック選手に直接触れたことにより、オリンピックを身近に感じることができた。
- ・オリンピックの写真や動画(実際のスケルトン競技の様態)を示しながら、競技種目の特徴や競技の大変さ、楽しさ等について説明を受けたことにより、身近ではないスポーツにも関心を寄せることができた。
- ・選手自身の体験、とりわけ自身の失敗談などを交えての講演により、オリンピック選手にも苦労があり努力が必要であることを強く感じさせることができた。
- ・講演後の質疑応答が生徒からたくさん寄せられ、時間の都合上、質疑を打ち切らなければならないほどであり、講演者が控室において、自分が一番伝えたかった事柄についての質問が多く寄せられたことに感謝したいとのメッセージを受けることができた。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

※オリンピック・パラリンピック教育の継続的な展開に向けて、実践を通して得られた課題点がございましたら、自由に記述してください。

- ・教育課程を編成する上で、総合的な学習の時間として講演等を設定するにあたり、学校及び学年で設定している時間との整合をどのように図っていくか(事前・事中・事後)。
- ・単に講演を実施するだけでなく、オリンピックムーブメント(オリンピックへの社会的運動)に対する手立ての構築と継続的実践の在り方について、生徒及び家庭、地域の関心・意欲をどのように高めていくべきか。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城

【学校名】 利府町立 利府中学校

【テーマ】 I ② III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

「オリンピックを感じよう

～東京オリンピック・パラリンピックムーブメントに向けた中学生としての取組を通して～」

【実施学年、部、講座等】

社会部 22名（特別支援学級生徒含む）

美術部 23名（特別支援学級生徒含む）

【目的・ねらい】

中学校の教育課程において、オリンピック・パラリンピックに関連付けた運動及び文化的な活動を中学生に体験させることを通して、国内開催のオリンピックの士気高揚に資する。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科（ ） ・道徳 ・外国語活動 ・総合的な学習の時間 ・特別活動
- ・教科以外での取組（部活動）

【実践内容等】

（実施内容） ※適宜、様子を示す写真、図表、記録を含めてください。

（1）実施内容：東京オリンピック発祥であるピクトグラムを基盤にして地域の案内表示を美術の授業を中心にデザイン学習を行う。授業及び文化部活動（美術・社会部）の一環として行い校内発表として掲示等を行う。

（2）期待する効果：地域のピクトグラムや地域のタウンマップを制作することを通して、デザインを創造することや制作すること、美術的創造力と技能が生活に密着していることを体感できる。【部活動：教育課程との関連・関係機関との連携】

（3）実施内容の具体

実施期間：平成27年10月～平成28年3月

場所：利府町立利府中学校、利府町役場

対象生徒：社会部（文化部）・美術部（文化部）

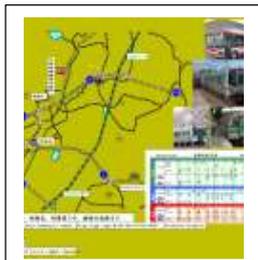
活動内容：生徒から募集したデザインを美術部により精選し、ピクトグラムを作成する。タウンマップ制作は社会部の活動により行う。制作した作品は校外研修等でオリ・パラムーブメントに活用する。

実施協力：利府町役場（産業振興課 商工観光班）

(実施内容の続き)



(社会部活動)



(タウンマップその1)



(タウンマップその2)



(役場での放課後学習会)

【マップづくりの検討会の様子】

【取材・制作中の案】

【交通網中心に作成案】

【協力:役場産業振興班】

(実践上の工夫点、留意点等)

・外部機関との連携を図った。部活動等においては、顧問と部員による活動が主なものとなるが、外部機関による専門的な知識を学ばせることにより、それまで考え付かなかつたり、思いつかなかつたりしたアイデア等を出すことにつながるのではないかと考えたためである。

(成果) ※児童・生徒の学習効果、意識変容等の効果について、可能な範囲でアンケート結果等概要を記入してください。

・スポーツ以外の視点からもオリンピックムーブメントに対する関心意欲が高まった。活動当初は目的意識があまり高くはなかったが、部活動での検討会や、実際に役場に出向き役場職員による学習会を開催し動機付けを行う一方、休日の部活動時間帯には顧問とともに町を実際に歩き、観光客の視点で自分の町を見直しながら、どのように案内マップを作成すれば、はじめて町を訪れる人に役に立つかを考えるようになった。各自のアイデアを持ち寄り、検討会を重ねることで様々な視点からのタウンマップを作成することができた。

・相手意識を持ちながら、自ら進んで課題に取り組み、成果に結びつける意欲が高まった。デザインの精選にあたっては、創作活動を繰り返すため、かなりの時間を要した。一目で分かるデザインにするため、すなわち来訪者にとって役立つ視点で思考することは、生徒の、相手に対する思いやりの気持ちを具現化させることにもつながった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

※オリンピック・パラリンピック教育の継続的な展開に向けて、実践を通して得られた課題点がございましたら、自由に記述してください。

・部活動等にオリンピックムーブメントを設定するにあたり、教育課程の編成上、文化部等における活動範囲をどこまで設定していくか。

・部活動等を通して、オリンピックムーブメント（オリンピックへの社会的運動）に対する手立ての構築と継続的実践の在り方について、生徒及び家庭、地域の関心・意欲をどのように高めていくべきか。

・制作物がある場合、その財源確保をどのようにしていくか。（当初計画のものが途中で変更になったり、予定以上の予算がかかったりすることがあるため）

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城

【学校名】 利府町立 利府中学校

【テーマ】 I II III **IV** V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

「オリンピックを感じよう

～東京オリンピック・パラリンピックムーブメントに向けた中学生としての取組を通して～

【実施学年、部、講座等】

第 1 学年（男子 75 名・女子 63 名）（特別支援学級生徒含む）

【目的・ねらい】

中学校の教育課程において、オリンピック・パラリンピックに関連付けた運動及び文化的な活動を中学生に体験させることを通して、国内開催のオリンピックの士気高揚に資する。

【種類】（当てはまるものに○）

- ・各教科（ ）
- ・道徳
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- ・教科以外での取組（ ）

【実践内容等】

（実施内容） ※適宜、様子を示す写真、図表、記録を含めてください。

（1）実施内容：外国語の学習の一環として、来日する外国からの観光客等へ各国の言葉（中・韓・葡国 等）に触れるとともに、あいさつの仕方や地域の道案内表現等を練習する。

（2）期待する効果：英語以外の外国語に触れることで、実際の場面で生きてはたらく言葉の学習に役立たせる。

【総合的な学習の時間：関心・意欲・態度】

【国際理解教育：関心・意欲・態度、表現の能力】

（3）実施内容の具体

実施日：平成28年1月27日（水） 6校時（2：15～3：10）

場所：利府町立利府中学校体育館

対象生徒：1学年生徒（138名）

授業者：MIA（宮城県国際化協会）登録者（韓国・中国・ブラジル）

授業内容：各国の文化等の紹介・各国の言語によるあいさつ、自己紹介（名前・所属・場所の名称等）、簡単な道案内の表現、他

実施内容：講演・競技用品の展示・写真、映像の展示公開

実施協力：MIA（宮城県国際化協会）

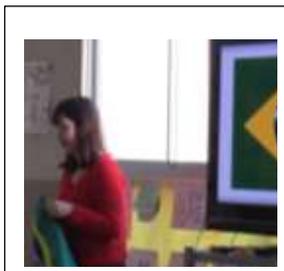
(実施内容の続き)



(中国語)



(韓国語)



(ポルトガル語)



(表現練習)

【あいさつの仕方、発音練習】

【韓国文化の紹介】

【ブラジル文化の紹介】【ポルトガル語での自己紹介】

(実践上の工夫点、留意点等)

- ・単調な外国語の練習にならないように、事前に授業者と十分な打ち合わせを行い、それぞれの自国の文化や伝統、習慣等の紹介を生徒との対話形式で行うことにより、授業者の母国への関心・意欲を高めさせた。また、三か国ともオリンピック開催国であるので、それぞれの国でのオリンピックについても簡単な紹介・説明を行うことで、オリンピックへの関心を高めさせるようにした。
- ・あいさつや自己紹介等の表現練習においては、クイズ形式による練習を行うことで、飽きずに学ばせるよう配慮した。

(成果)※児童・生徒の学習効果、意識変容等の効果について、可能な範囲でアンケート結果等概要を記入してください。

- ・英語以外の言語や文化、習慣等に親しみ、国際理解に対する関心が高まった。中学生にとって、中国・韓国・ブラジルは知られた国々であるが、それぞれの国の出身者に直接触れる機会はこれまでなかった。そのため、生徒は新鮮な感覚で授業者の説明や話を聞き、各国のことばの練習に意欲的に取り組んだ。授業終了後も覚えたことばで友人とあいさつをしたりするなど、異文化理解につながった。
- ・今年のオリンピック開催地のリオ・デ・ジャネイロ（ブラジル）、2008年開催国の中国（北京）、2018年冬季オリンピック開催国の韓国（平昌）と三か国ともオリンピック開催国から協会登録者を派遣してもらうことができたため、オリンピック及び開催国に対する親近感が高まった。
- ・授業者であるMIA（宮城県国際化協会）のスタッフからは、今後も生徒とかかわりを持ち、オリンピック開催まで定期的に異文化理解学習や言語学習をしていきたいという意見があがった。
- ・今回の授業をはじめ、オリンピックも人とかかわりが大切であることに気付かせることで、周囲の人やものと積極的にかかわろうとする意識の高まりがみられるようになった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

※オリンピック・パラリンピック教育の継続的な展開に向けて、実践を通して得られた課題点がございましたら、自由に記述してください。

- ・教育課程を編成する上で、総合的な学習の時間として授業等を設定するにあたり、学校及び学年で設定している時間との整合をどのように図っていくか（事前・事中・事後）。
- ・外部講師による授業実践等を通して、オリンピックムーブメント（オリンピックへの社会的運動）に対する手立ての構築と継続的実践の在り方について、生徒及び家庭、地域の関心・意欲をどのように高めていくべきか。

オリンピック・パラリンピック・ムーブメント推進校 実施報告書

【都道府県】 宮城

【学校名】 利府町立 利府中学校

【テーマ】 I II III IV V

- I オリンピズムの教育的価値
- II おもてなし精神とボランティア
- III パラリンピックと障害者スポーツ
- IV 日本文化と異文化・国際理解
- V スポーツを楽しむ心

【実践研究タイトル】

「オリンピックを感じよう

～東京オリンピック・パラリンピックムーブメントに向けた中学生としての取組を通して～

【実施学年、部、講座等】

バレーボール部(女子) 10名

【目的・ねらい】

中学校の教育課程において、オリンピック・パラリンピックに関連付けた運動及び文化的な活動を中学生に体験させることを通して、国内開催のオリンピックの士気高揚に資する。

【種類】(当てはまるものに○)

- ・各教科 ()
- ・道徳
- ・外国語活動
- ・総合的な学習の時間
- ・特別活動
- 教科以外での取組 (部活動)

【実践内容等】

(実施内容) ※適宜、様子を示す写真、図表、記録を含めてください。

- (1) 実施内容：実施可能な部活動を対象として、運動経験者等による定期的な部活動への支援を一定期間実施し(コーチ登録者以外の協力者とする)、平日及び休日等の部活動において、実践的運動能力の向上及びチームワーク等の大切さを学ぶ
- (2) 期待する効果：専門的知識及び技能を習得した経験者により運動の楽しさやチームワークの大切さを学び、体力及び技能の習得に役立たせる。

【部活動：スポーツ等に親しみ、好ましい人間関係の形成・教育課程との関連・関係機関との連携】

- (3) 実施内容の具体

実施期間：平成27年11月23日(月)～平成28年3月23日(水)

実施時間：(授業日)放課後部活動時間帯(顧問より指示のあった時間帯)

(休日等)活動時間帯(午前、午後もしくは終日において顧問より指示のあった時間帯)

場所：利府町立利府中学校体育館(練習試合及び大会参加においては顧問より指示のあった場所)

対象生徒：バレーボール部(女子)(10名)

部活動支援学生：佐藤 拓(さとう たく)(男性)(仙台大学体育学部1年在籍)

活動支援内容：練習指導・モデリング・ゲーム指導・データ分析・チームワークづくり

実施協力：仙台大学(学生支援センター)

(実施内容の続き)



(モデリング支援)

【高いネットでの練習】



(練習ゲームの支援)

【顧問・学生チームとのゲーム】



(練習時における動きの支援)

【記録の分析と提示】



(高校遠征への協力)

【支援学生による調整】

(実践上の工夫点、留意点等)

・単に技能を向上させるためだけではなく、集団スポーツの意義から、チームワークを高める視点での支援を中心に行った。そのため、ゲーム等の記録(映像)を示しながら個々の動きのバランスについて選手相互に考えさせる場を多く設定した。

・チームワークを高めるとともに、選手個々の体力と技能の向上を目指した。基礎体力づくりにおいては、体育大学において支援学生が学習したトレーニング方法を中学生向けに調整し実践させた。また、技術的な向上においては、バレーボールというスポーツの動き(サーブ・レシーブ・パス・スパイク・ブロック・フォロー等)の個々のデータを選手に示しながら、活動時における個人目標と全体目標を提示し、目標達成に向けて個人及び全体へのこまめな支援を継続した。

(成果)※児童・生徒の学習効果、意識変容等の効果について、可能な範囲でアンケート結果等概要を記入してください。

・スポーツを通して体力と技能の向上に目的意識をもって取り組む姿勢が高まった。これまでは数値的目標設定が行われていなかったが、明確な目標点を選手個々につかみとらせ、その目標に向けて選手一人一人に適したトレーニングを行わせることで、生き生きとした部活動の継続につながった。

・自分の部活動に対する所属意識の高揚とチームワークの必要性への理解が高まった。学習指導要領における部活動の意義を踏まえ、なぜ部活動があるのか、部活動において何を目的・目標として取り組むべきか、そのためにはどのように取り組めばよいのかを、一つ一つ丁寧に支援することで、さらに真摯な姿勢で部活動に取り組む姿勢の向上につながった。

・試合に勝つ以前に、自分自身の弱さを見つけ、克服するために努力を重ねることが、周囲の期待を一身に背負い努力を続けなければならないオリンピック選手の立場や気持ちを理解させることにつながった。

【オリンピック・パラリンピック教育の実施に伴う課題点】

※オリンピック・パラリンピック教育の継続的な展開に向けて、実践を通して得られた課題点がございましたら、自由に記述してください。

・部活動支援を実施する上で、体育大学をはじめ、地元の各大学に対し、教員を志望する学生を継続的に要請するためには今後どのように手立てを講じていくべきか。(協力要請の在り方、支援活動における援助費(交通費等の支給)、安全対策(保険加入の予算化)等)